

令和8年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
6. 解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

問 題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

自国の食料を自国で生産する食料自給は、私たちの生存のために重要です。しかしながら、農林水産省によれば、日本の食料自給率（カロリーベース）は昭和40年度（1965年度）の73%から下がり続け、令和5年度（2023年度）は38%になったとされています(1)。食料自給率を上げるには農業生産の拡大が有効だと考えられており、その方法のひとつとして農地を増やすことが考えられます。

今の日本では、農家が耕作を放棄したことにより荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が不可能となっている荒廃農地が増えているとされます(2)。

一方、環境省によれば、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標を、我が国はかかげていますが、現状はこの目標に及んでいません。この目標を達成するため、国立公園などの国や自治体が管理する保護地域の拡張と管理の質の向上だけでなく、例えば社寺林や民間が所有する山林などを活用することも提唱されています(3)。これに加えて、先に触れた荒廃農地などを、その地域の元来の自然的環境に近いものに復元するという考え方もあるでしょう。

こうした問題に対処するには担い手が必要であり、農村の過疎化や高齢化している現状をふまえた対処が必要です。

(1)農林水産省(https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html, 2025年8月22日閲覧)

(2)農林水産省(<https://www.maff.go.jp/attach/koho-35>, 2025年8月22日閲覧)

(3)環境省(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>, 2025年8月22日閲覧)

問題 もし、あなたが耕作されていない農地や荒廃農地を管理する立場になり、管理者として健全な生態系を増やすという目標と食料自給率の向上という目標に同時に近づけるよう求められたら、あなたはどのようなことしようと考えますか。またそれはなぜですか。600字以上1200字以内で述べなさい。

令和8年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

出題の意図

本学科では、アドミッション・ポリシーにおいては「生物生産・資源や自然環境の分野に関心があり、社会（または地域社会）に貢献する強い意志をもつ人」を求めている。本小論文ではこのアドミッション・ポリシーと関連が深い、現在我が国が直面する2つの問題をまず提示した。農業生産拡大と自然の保護は、農薬と化学肥料を多用した慣行農法を用いると二律背反の関係に陥りうるが、管理が放棄された耕作放棄地に着目して、新たな発想で適切な方法により管理することにより、生物生産拡大と生物多様性保全の両方の目標を矛盾なく達成する道はないだろうかと問うた。これは、農業経験の有無に関わらず、受験生がこれまでに学んだ知識と、問題文の情報に基づき、想像力と論理的な思考を働かせて作文するよう意図して出題したものである。